予告

FUTURE EVENT 01 2014年度企画展
多彩なデザインの現場から―名古屋芸術大学 デザイン学部客員教授関連プログラム展―

2014年10月17日［金］－29日［水］
名古屋芸術大学アート&デザインセンター

本学デザイン学部では様々な実践的体験を通じて学生の豊かな人間性や創造力を育む教育の一環として、毎年国内外を舞台に様々なデザイン領域で活躍するアーティストやデザイナーを特別客員教授として招聘し、デザインプロジェクトや講演会など長期に渡るプログラムを展開しています。今年度10月の企画展ではデザイン学部の各特別客員教授が学生と共にどのようなプロジェクトや授業を展開したか、その一端を学生達の作品を交えて展示します

ヴィジュアルデザインコース
檜原 由比子
株式会社 資生堂 宣伝・デザイン部
クリエイティブディレクター・
アートディレクター

デザインマネージメントコース
服部 滋樹
graff代表・
クリエイティブディレクター

スペースデザインコース
馬場 正尊
Open A 代表取締役
建築家・東京R不動産ディレクター

FUTURE EVENT 02 2014年度企画展
「SHOBU STYLE～工房しょうぶの仕事～」展

2014年11月7日［金］－19日［水］
名古屋芸術大学アート&デザインセンター

鹿児島市にある知的障害者支援センター「しょうぶ学園」。「nui project」の名で流通している刺繍が施された服や、2012年にアパレルメーカー《nico and…》のCMで流れたことで一躍話題に上った音楽パフォーマンス「otto&orabu」など数多くのプロジェクトを企画し、各方面から注目を集めています。各々の行為から生まれてくる思いがけない表現、心の動き、行動の全てを「個性」として尊重し、サポートすることで、しょうぶ学園は他では真似できないカタチを創りだすことに成功しています。今年度11月の企画展はしょうぶ学園の各工房で制作された作品と商品を一堂に展示し、会期中には「工房しょうぶ」のコーディネーターでもある福森伸園長の特別講演や施設利用者を招いての刺繍のワークショップ、2014年制作のドキュメンタリー・フィルム『SO:but[and]=1.2.3.4』(75分)も上映します。

布の工房の様子（しょうぶ学園）

特別講演

**「僕は僕のままでいるしかないのに、
何を変われと言うんだろうか?」**
福森 伸（2014年度美術学部特別客員教授）

日時：2014年11月7日［金］14:50～16:20
場所：西キャンパスB棟大講義室

ワークショップ

日程：2014年11月11日［火］-14日［金］
時間：13:10―16:20
**場所：G202アートクリエイターコース
実習室**

しょうぶ学園の「布の工房」スタッフと利用者による『刺繍』のワークショップを行います。

2014 06-10 EXHIBITION SCHEDULE

Open 12:15―18:00（最終日は17:00まで）日曜・祝日休館　**入場無料**　どなたでもご覧いただけます。
スケジュールは変更になる場合がありますので、ご確認ください。

6/ 6 金→	6/11 水	From Denmark 2014
6/13 金→	6/18 水	名古屋芸術大学 教員展
6/20 金→	6/25 水	3年洋画1コース作品展
6/27 金→	7/ 2 水	名古屋芸術大学デザイン学部 助手展
7/ 4 金→	7/ 9 水	Preparation 展
7/11 金→	7/16 水	2014年度前期留学生作品展
7/18 金→	7/23 水	スペースデザインコース コース展「くうねるところにすむところ」展
7/18 金→	7/23 水	「The Five Senses」<アート&デザインコミュニケーション演習>院生展
7/18 金→	7/23 水	No Reason : Have Result 展
7/25 金→	8/ 6 水	素材展（メタル&ジュエリーコース・テキスタイルデザインコース前期制作展）
9/19 金→	9/24 水	名古屋芸術大学 彫刻コース展
9/26 金→	10/ 1 水	美術学部前期終了学生作品選抜展
10/ 3 金→	10/ 8 水	書道アート展
10/ 3 金→	10/ 8 水	名古屋芸術大学大学院　洋画制作2014
10/10 金→	10/15 水	『幼稚園児たちのゲイジツ』展
10/10 金→	10/15 水	『Hand Hospeace ; 医療と美術2014』展
10/17 金→	10/29 水	2014年度企画展　多彩なデザインの現場から
―デザイン学部特別客員教授関連プログラム展―
10/31 金→	11/ 5 水	ア"ーッ!ラジオ&名古屋芸術大学大学院同時代表現研究<洋画>・京都造形大学大学院PrPROJECT 交流選抜展

編集後記

留学、遊学。多少の違いはありますが結局はどちらも故郷を離れて己の常識との違いから何かを学ぶということです。「遊学」という言葉は本来の意味と違う使い方をする人も多いようですが、遊びの中に何かを見いだすこともあるわけで、それなら間違った「遊学」も意味のあるものに出来るかどうかは自分次第。それは留学、遊学に限らず何に対しても言えることなのでしょう。と、私も自分に言い聞かせる日々です。

惣城友美（アート＆デザインセンター）

最寄りの交通機関をご利用の場合
名鉄犬山線（地下鉄鶴舞線乗り入れ）徳重・名古屋芸大駅下車西へ約1,000m徒歩15分
※急行―準急電車の場合は西春駅で普通電車に乗り換えるか下車してください
中部国際空港からも名鉄犬山線をご利用ください
西春駅から北西約2,200m徒歩25分、西春駅からはタクシーの便もあります
自動車をご利用の場合
名神一宮インターから10分、名神小牧インターから15分

大学基準協会認定マーク
本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再取得しました。
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。
これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

名古屋芸術大学 Art & Design Center
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地　TEL［0568］24-0325　FAX［0568］24-2897

B!e Vol.40
発行日　2014年7月18日
編集　髙橋綾子（美術学部美術文化コース）／惣城友美（アート＆デザインセンター）
発行　名古屋芸術大学アート＆デザインセンター
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地　E-mail adc@nua.ac.jp　URL http://www.nua.ac.jp

2014 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of Arts

デザイン／印刷　サンメッセ株式会社

NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS
B!e
NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS　ART & DESIGN CENTER　NEWS　2014.Vol.40

留学？遊学！

Studying abroad

NUA国際交流のこれまでとこれから

写真はブライトン大学正面。「Show」のバナーが卒業制作展開催を告げる。

先の6月上旬、卒業制作展に合わせてイギリスブライトン大学を訪問した。交流の一貫としてそれぞれの優秀卒業制作に対し賞を出し合う交流を行っており、その審査のためであった。このブライトン大学との交流は今年で18年に及ぶ。今回の訪問は平井後援会会長、扇教授、加藤国際交流センター職員に加え、この交流をスタートさせることにも尽力された大島俊三、村上太佳子両名誉教授も同行されたのだが、ブライトン大学の前副総長Bruce Brown氏と「この交流は両学の学生にとって幸福なものとなった」と振り返り語り合っていたのは印象深い。

そのような交流は、もちろんブライトン大学だけに留まらない。名古屋芸術大学の特色の一つに世界約25の大学との提携に支えられた活発な国際交流活動が挙げられる。美術・デザイン学部では特にヨーロッパの諸大学との間で交換留学等の事業が盛んであり、また、音楽学部ではフランスエコール・ノルマル音楽院との提携を行うなど、現在も積極的に展開している。また、タイや韓国などアジアの国々との連携も進んでいる。

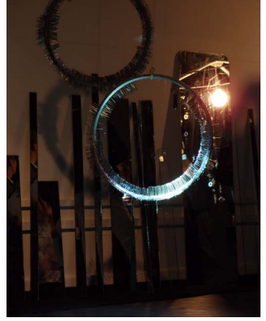
こうした交流によって、多くの学生が交換留学生として世界を肌で感じ多くを吸収する貴重な体験をしている。海外生活を体験することで、自分たちが無意識の内に行っている日々の習慣が異化される。そうした視点が芸術やデザイン、人間発達教育にどれほど貴重かを敢えて語る必要はないだろう。全ての創造は常識を疑う「違和感」から出発する。同時に、様々な国々からの留学生が本学を訪れる。キャンパスに留学生の姿があることが与える好影響も貴重である。彼らにとっても名古屋での体験は帰国後、彼らのキャリアを後押しするものとなっていると聞く。

交通や通信の発達により世界はより小さくなっていることは確かである。今や、国際交流は括弧付きの特別なことでは決してない。これからの世界は、グローバルに均質化していくのではなく、それぞれ固有のローカルな知恵をグローバルにつなぎ、展開していく時代であろう。今後、名古屋芸術大学では多国間での共同教育プログラムや教員間の研究交流も含め、これまでの事業を土台にし、更に活発な活動への展開が期待されている。そのためには現代的な国際交流の意義を問い直し、自分たちの生活文化の根源を見つめ直すことも同時に行わなければならない。

水内智英　国際交流センター長/デザイン学部講師

留遊学？！
Studying abroad

審査の様子


学生作品
(Tamsyn Mathews and Megan Courtis(Joint project))

バンクシーのグラフィティ

学生作品(James Kearns/部分)

UCA Textilesの卒業制作展

レース会議で紹介された筆者の作品

Report of UCA

英国でのレジデンス

2014年度ロンドン郊外の町ファーナムにあるUniversity for Creative Artsに客員教授として滞在してもうすぐ3ヶ月になります。この大学のクラフトは名門で、テキスタイルの他には3Dデザインがあり、セラミック、グラス、ジュエリー、メタルワークがひとつのコースにまとまっています。5月末には卒業制作展が大学構内で開催され、テキスタイルコースはファッション、インテリア、車のシートのためのテキスタイルを提案していました。6月末には、ロンドンで各大学の卒業制作の優秀作展New Designersが開催されます。ここで学生は、卒業後の仕事を獲得するために自作をアピールします。

英国から他の欧州諸国へは短時間で行けるので、ミラノサローネサテリテ、パリギメ美術館でのテキスタイル展覧会に行ってきました。9月は、パリのメゾンエオブジェ、プルミエールヴィジョン、ミラノのウニカなどの見本市が目白押しです。シンポジウムも盛んに行われており、今まで2つの会議に参加し、テキスタイルの専門家と情報交換をしました。

本稿ではテキスタイル分野だけを紹介しましたが、欧州は文化層が厚く、常に展覧会やシンポジウムが行われている刺激的な環境です。学生のみなさんは、若い時期に異文化の中で他国の人と交わることで、自分を客観視する機会を持つことをおすすめします。

扇 千花　デザイン学部教授

Report of Brighton

「TAMIKO !」…と懐かしい華やかな声が。。。振り返ると、そこにはあの可愛いガールズ達が 4 人、「Welcome NUA」の旗を持ち満面の笑みで立っていた。日本からの長旅の疲れも吹っ飛び、彼女達と Hug & Kiss. 私達にはいつもの挨拶。会わなかった時間がいっきに消え去る。日本から約 18 時間、ブライトンに到着したのは 20:00 近く。でも、イギリスはまだまだ明るい。日暮れは 22:00 頃。彼女達と名古屋芸大のメンバーで、早速ブライトンの街へ繰り出した。坂の街で、突き当たりは海。Lane と呼ばれる路地がいっぱいあるブライトン。その路地に、アンティック・ショップや雑貨屋、レストラン、そしてたくさんの PUB が点在している。その一角にはバンクシーのグラフィティーもある。バンクシーがどれほど有名かは水内先生から教えていただき、みんなで記念写真!あっという間に過ぎた渡英初日であった。

次の日からは審査、昼食会、レセプション、授賞式…と毎日忙しいスケジュールであったが、 先生方もブライトンの方々といい雰囲気で交流を持たれたようだ。イギリス人は、おしゃべり好き!お酒やティーを飲みながら何時間でもおしゃべりをしている。一見ダラダラと続いているようなこのおしゃべり、これがなかなか侮れない。このおしゃべりの中で、いろんな情報交換をしている。そしてイギリス人はユーモアが大好き。会話自体を楽しむイギリス人は、 ユーモアのあるやり取りができるかできないかでより交友関係が拡がる。3 度の渡英から学んだことである。

毎年、 名古屋芸大へこのブライトンの風とイギリスの文化を運んで来てくれるガールズ達。今年のガールズ達は、どんな風を運んでくれているのだろう。

加藤多美子　西キャンパス国際交流センター

名芸賞を受賞した学生(中央)

右から水内智英(本学講師/国際交流センター長)、村上太佳子(本学名誉教授)、
河野英一(本学名誉教授)、扇千花(本学教授)、平井友明(本学後援会会長)、
Bruce Brown(ブライトン大学前副総長)、大島俊三(本学名誉教授)、
Anne Boddington(ブライトン大学美術学部長)、加藤多美子(本学国際交流センター職員)(敬称略)

REVIEW

名古屋芸術大学美術・デザイン学部 OB・OG展2014

前期2014年5月9日［金］―5月14日［水］
後期2014年5月16日［金］―5月21日［水］
名古屋芸術大学アート&デザインセンター

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会では、「OB・OG展」を開催いたしました。 同窓会として、同窓生・在校生の皆さんのお役に立てることはないかと考え、多彩な領域で活躍している同窓生をピックアップし、学生の皆さんがクリエィティヴな活動を将来見据える上で刺激となる展覧会を設けたいという目的で企画したのが、この展覧会です。会期は2週間、前後期に分けて7名の作家の作品を展示しました。

前期は中島弘敬さん(デザイン4期卒)のデザイン画、川田英二さん(版画22期卒)の銅板画、村松陵子さん(日本画23期卒)の漫画原稿、和田唯奈さん(洋画40期卒)の平面作品が展示され、後期は佐久間要さん(洋画22期卒)のインスタレーションに、荒木由香里さん(彫刻32期卒)の彫刻作品、まり木綿(デザイン38期卒、伊藤木綿さん/村口実梨さん)による、てぬぐいや足袋などが展示されました。

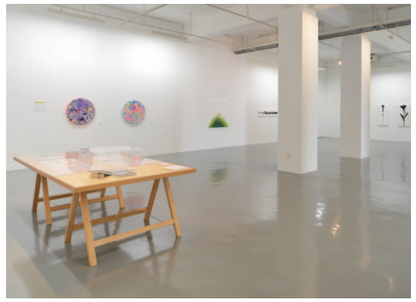
展覧会のオープニングでは、学長はじめ多くの先生方、学生の皆さんに参加して頂き、大変有意義な時間となりました。アーティストトークも行われ、興味のある作家と話す機会もでき、在校生と同窓生を直接つなげる良いきっかけになったと思われます。

同窓会主催の展覧会は今回が初めてで、役員の中で対象作家を選抜し、新作だけでなく過去の作品も含めて展示しました。選抜する作家についてご意見ご要望があれば、事務局までご連絡をお待ちしています。

出展いただいた同窓生の方々にはお忙しい中今回の趣旨にご賛同頂き、搬入出、オープニングなど自らご協力いただき感謝しています。ありがとうございました。今後も毎年開催できるよう、尽力して行きますのでよろしくお願いいたします。

青木高弘　名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長

展示風景



日常で使われる工業製品(プラスチックや金属製品など)を使用した彫刻作品(荒木由香里)

◀手書きの漫画原稿と海外版の単行本
(手前左、村松陵子)、
キラキラした素材による鮮やかな世界観の
平面作品(左奥、和田唯奈)

草、花、石など自然物を転写し表現した銅版画の立体作品(左、川田英二)と、
自動車関連のデザイン画パネル(右奥、中島弘敬)

アイロンビーズを用いた絵画と身近な植物と石による
廃墟感を演出したインスタレーション(佐久間要)

有松絞りの工房、店舗で制作販売している
手ぬぐいや足袋などの製品(まり木綿)

ART WORDS FROM THE ART WORLD

SIAF SAPPORO INTERNATIONAL ART FESTIVAL 2014

札幌国際芸術祭2014　2014年7月19日［土］―9月28日［日］
http://www.sapporo-internationalartfestival.jp/

芸術一話 第16話 キュレーターになること

インディペンデント・キュレーター／
札幌国際芸術祭2014アソシエイト・キュレーター
飯田 志保子
Shihoko IIDA

取材や大学の特別講義で「なぜキュレーターになったんですか?」と聞かれることがよくあります。そのたびに「実はなろうと思ったことは一度もなくて、結果的にそうなったんですよ」と答えています。アート・マネージメントを学べる学科のある大学が増えたり、キュレーター志望の人がちらほらいたりする現在、キュレーターへの熱い思いが込められた回答を期待した人は肩透かしを食らうようです。学生の時に関わって展覧会制作の現場を志望するようになった国際展や、その後のさまざまな出会いといった「事の始まり」が複数重なった結果ですが、大事なのはキュレーターを含め、ある職業には就職したら自動的になるものでなく、年月をかけて経験を積んで徐々に「なっていく」ということです。そして誰しもその過程のある時点で、「ここまで来たらもう後戻りはできない」と腹を括って、その職業人として生きる決断をする時が来るのだと思います。それがキュレーターになった時だと私は考えています。

美術館組織の右も左も分かっていなかった頃から育ててくれた上司や諸先輩方、様々な折にお世話になった方々への恩義や、一緒に展覧会を作り上げてきたアーティストとのかけがえのない経験といった人とのつながりも要因ですが、この仕事は展覧会制作や執筆を介して、アーティストと作品を文脈化・歴史化することだと自覚したことが大きいです。公金を使って行われる文化事業であれば、その責任はなおさらです。縁あって従事し始めたキュレーター業ですが、今はいうなれば社会的責任に背中を押され、私は日々この仕事に臨んでいます。学生の皆さんがこれからの何者になっていくのかも、10年、20年後の話。アートが私たちに求める年月は、そのぐらい長いのです。